



□2月9日・16日『四日市の街づくりワークショップ』

NPO 法人「YTT(四日市の交通と街づくりを考える会)」との探究学習が行われました。
YTT の副理事長である宗像基浩さんを講師にお招きし、お話を伺いました。

<第1回 街の要素と SDGs の関係について学ぼう>

第1回のテーマは「街の要素と SDGs の関係について考える」でした。まず初めに、講師の宗像さんより「四日市に住むのに車は必要か」という生徒への問いかけがあり、多くの生徒からは「必要だ」という意見が出ました。

続いて、四日市のような「車がないと生活ができない街は住み続けられる街か」という SDGs の「住み続けられるまちづくりを」の目標とも絡めたテーマでグループでの話し合いが持たれました。「いいえ」が大半となり、「車がないと行きたいところに行けない」「車がないと高齢者にとって不便」という意見が出ました。宗像さんから、車の維持や道路などにかかる整備などにも多くの費用がかかることから「車中心の街づくりは負担が大きすぎる」という話がありました。

さらに、上記の意見を踏まえ「持続可能な街とはどんな街か」という問いかけが宗像さんよりなされました。生徒から意見は出たものの、解決策を考えるのに苦心している様子が見られました。そこで改めて、逆に「持続不可能な街はどんな街か」問われると、グループで話し合いをすすめ、「生活に必要な店や会社などがない街は持続不可能」「悪いところを改善しない街は持続不可能」などと考えたうえで、「空き地や空き家などを活用すれば良いのではないか」「ユニバーサルデザインを取り入れたら良いのではないか」という持続可能な街づくりのための解決策が生徒から少しずつ出てきました。



街づくりについて考えるうえで、「良い街」のために「できることを考える」よりも、逆の発想で「ダメな街」から「なぜダメなのか・なぜ成立しないのか」を考え、そこから解決策を考えていく思考が大切であることもアドバイスしていただきました。

最後に、これから「住み続けられる街づくり」のために自分にできることを考え、「現状の社会問題や、身の回りの問題について勉強する」などと生徒一人ひとりが宣言をしました。

